

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成23年 6月13日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530373

研究課題名（和文）

社会ネットワーク間の相互作用とイノベーションの組織研究

研究課題名（英文） Interaction of Networks and Organizational Innovation

研究代表者

中野 勉（NAKANO TSUTOMU）

青山学院大学・大学院国際マネジメント研究科・教授

研究者番号：10411795

研究成果の概要（和文）：

本研究はソーシャル・ネットワークの視点からイノベーションの研究を行ったものである。「創造的な摩擦」の理論（Stark 2009）を応用し、制度論と組織化のプロセス、ネットワークの多重性と閉鎖性の概念から、異なるサブ・グループとしてのネットワーク間の相互作用を分析した。文化的なビジネスや社会起業家のネットワークでは、文化的な同質性の高いものとなる一方で、大規模産業集積においては、環境変化が新たな競争を生み出し、周辺部分でリンクの組み換えが起こるなど、イノベーションを生み出すメカニズムが働いていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

This study investigates dynamic relationship between different subgroups in social networks in order to understand its impact upon organizational innovations, by applying the theoretical undertaking of “creative friction” proposed by Stark (2009). Conducting network analysis, qualitative review studies and fieldwork interviews in a large regional cluster, social entrepreneurs and cultural business activities as empirical fields, the study shows a network mechanism of innovations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：ネットワーク分析、創造的な摩擦、creative friction、イノベーション、組織的なネットワーク、ソーシャル・ネットワーク、ネットワークの多重性、ネットワークの組み換え

1. 研究開始当初の背景

社会ネットワークが企業活動などの経済

取引に及ぼす影響については、George Homans (1949) が工場のラインワーカーの間のインフォーマル・ネットワークが生産効率に影響を与えることを発見して以来、マネジメント理論及び実証研究が積み上げられ、1980年代以降アメリカを中心に経済社会学 (economic sociology) 分野として確立された。経済的な取引におけるネットワークの効果についての既存の実証研究は多く、中でも「埋め込み (embeddedness)」や「弱い繋がり (weak ties)」、「構造的な穴 (structural holes)」、「構造的結合性 (structural cohesion)」、ステータスと評判、ソーシャル・キャピタル、複雑系システムなど多くの分析概念が提案されてきた。その中心的な分析は単一の社会ネットワークであり、取引における複雑な社会構造の関係性の視点からは説明力に限界がある。

近年欧米を中心に複数の異なるネットワークに跨る複雑なノードの関係を分析する研究が進み始めている。例えば、Micheal Jensen (2003) は1990年代にウォール・ストリートにおいて商業銀行が投資銀行業務に進出した際に、それぞれの業務でのネットワーク上のステータスが戦略的提携を組む基本となったと説明している。また、Padgett & Ansell (1993) はルネサンス期において、メディチ家が姻戚関係と商業取引関係のふたつのネットワークから如何にしてその正統性を確立したのかを実証している。Douglas White (1997) は婚姻関係と相続関係の相互作用からメキシコにおいて非常に公平性の高い大規模ネットワークが存在していることを実証した。このように異なる種類の社会ネットワーク間の相互関係に注目

する研究は、複雑なノードの動きをミクロレベルから分析することでマクロ的な関係構造をダイナミックに浮かび上がらせることが可能となる点に大きなメリットがある。

日本企業のマネジメントに視点を移すと、調和を重んじる文化の中で、信頼関係について広く研究されてきた (Asanuma 1989; Dore 1983; Yamagishi 1998)。近年企業の説明責任が広く求められるようになり、社会的責任 (CSR) の概念の台頭など企業内の人間関係や企業のステーク・ホルダーとのコミュニケーションなど関係性の視点は益々重要になってきている。組織が複雑に絡み合う異質なネットワーク間を結び付ける経済活動は、エージェントが市場のギャップや制度的な歪みを埋めることでイノベーションを起こそうという行為である。それは異なるネットワークの間の橋渡しをすることで人間関係を組み換える (recombination) ことも意味する。

近年企業間の世界的な競争が益々激化する中で日本企業にもM&Aや戦略的提携が増加し、多くの産業でヴァリュー・チェーンに大きな変化が起きている。その結果産業集積における企業間関係にも大きな変化が見られる。同時に、ソーシャル・キャピタルを頼りにする社会貢献型のベンチャーの台頭が目されている。このように不確実性が高まる中で、ビジネスにおいては異なる理念や原理が並立するような場面も多くなり、組織内の「創造的な摩擦」がイノベーションの源泉であるとの視点 (Stark 1996) からは、ステーク・ホルダー間の利害の対立と調整は大きなテーマである。

本研究の学術的な位置づけは、ネットワー

クの多重性 (Simmel 1955) の議論に組織のイノベーションの視点を加え発展させるものである。具体的には、ヒエラルキー (Weber 1968) の対立概念であるインフォーマル・ネットワークとしての「組織的なネットワーク (organizational networks)」、制度論と組織化のプロセス、ネットワークの閉鎖性など諸概念を応用し、マネジメントをマイクロレベルのノードの複雑な関係性から研究する。日本での社会ネットワーク分析の組織論への応用は欧米に比べ大きく遅れており、本研究は斬新な理論、先端的な分析手法を用いて未開拓分野に挑戦したものである。

2. 研究の目的

欧米の経済社会学及びビジネススクールの一部の研究者を中心として、異なる社会ネットワーク間の相互作用についての研究が動き始めている。本研究では社会ネットワークを組織の指揮命令システムのヒエラルキーを超える「ネットワーク組織 (organizational networks)」(Dodds, Watts and Sabel 2003) と捉えることにより、経済的な取引の中で起こる組織内から組織間を跨いだ異なるネットワーク間の衝突、協調、調整などによる社会関係構造の変化を研究するものである。その組織化プロセスを社会ネットワークのノードの組み換え (recombination) によるイノベーションという視点から捉えることで、異なる組織化原理の「創造的摩擦 (creative friction)」のマネジメントとして組織論と戦略理論分野での理論の精緻化及びその実証分析を目指す先端的かつ先進的な試みである。

3. 研究の方法

基本となる理論として「創造的な摩擦」を応用する。操作概念としてネットワーク分析と組織論分野の諸概念を導入し、計量ネットワーク分析のためデータの収集を行いながら分析を進めることに加え、定性分析のための文献調査、対象となる現象やフィールドでのインタビューを行った。文献整理、計量及び定性データ収集、それらの分析、理論の再考を順次進めた。その後研究成果の学会発表、ジャーナルへの投稿、叢書の出版を含めた公表に進んだ。

4. 研究成果

研究成果は、ソーシャル・ネットワークと組織について論ずる叢書としての単著『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミクス—共感のマネジメント』に広く反映させながら出版した。そこには組織と戦略について、多くの新たな知見が含まれるが、日本における経済社会学からの組織研究を体系的にまとめ、マネジメントへのネットワーク分析の応用の可能性を提示したことに学術的な革新性と貢献がある。

これに加え、関連研究として「創造的な摩擦」の理論を提起した David Stark 著 A Sense of Dissonance を『多様性とイノベーション—価値体系のマネジメントと組織のネットワーク・ダイナミズム』を共訳として翻訳し、出版したことで、理論の深掘りが出来たことを指摘したい。さらにこの理論を応用した実証の可能性を提示することで、イノベーション研究に貢献するものである。

また、関連研究として、オーディオ産業について、1編の論文を刊行済みであり、この間3件の学会発表を行った。今後も発展的な関連研究を続けたい。

具体的な成果としては、第1に、ソーシャル・ベンチャーとIRとCSRへの取り組みについては、地方活性化や営利事業などについて継続的に情報を集めながら研究している。それらの研究は社会学理論の大きな課題である「ネットワークと文化」の問題の研究に発展しつつあり、例えば、日本のオーディオ産業は近年多角化の広がりを見せる一方で、ピュア・オーディオと呼ばれる高級オーディオ製品を扱う分野は縮小している。分析ではこの理由を「創造的な摩擦の欠如」と捉えネットワーク分析を行った結果、日本のオーディオ産業は行為者の共感に支えられた「文化資本」(cultural capital)が重要な産業であり、コアの顧客層がある中で、ネットワークが閉鎖的かつ排他的なものとなり、分断されたために縮小が起こった。そこには「創造的な摩擦」は活発に起きなかったものであり、この研究は文化的な産業の脆弱性をネットワークの視点から指摘する研究に発展しつつある。日本経済の文化的な問題を関係性の構造から指摘するものでもある。

第2に、産業集積における中小企業ネットワークについては、1997年から大規模ネットワークの分析を行っているが、東京都大田区および城南地区の企業間関係のネットワーク分析に関し、2007年以来インタビューでフォローアップした。大田区には、中小企業をサポートするさまざまな制度や行政の取り組みが存在するにも関わらず、20年ほどの間に企業数は半減し、大規模集積にはころびが見られる。その一方で、中小企業の中には既存のネットワークに加え、リンクの「組み換え」として新たな連携を模索する動きが活発であり、この研究は産業クラスターとしてのネットワーク分析から、ビジネス・エコシステムを考える研究に展開しつつあり、ダイナミック・ケイパビリティとネッ

トワークについての研究に発展させながら、逐次成果を公開していきたい。既存のエコシステムの議論から、クラスターとネットワークについて深掘りをする中で、エコシステムの持続的な発展性について理論的な問題点が見えてくる。

第3に、M&Aと経営統合については流通のヴァリュー・チェーンを分析するべく、地方市場と組合の動き、コンサルティングを行いながらある食品大手商社でのポストM&Aの経営統合の進展、また、その他産業における大企業を中心とした水平展開と垂直統合を海外での活動を含め調査しているが、トピックが大きいこともあり、研究の進捗は遅いのが現状である。

これらの研究はイノベーション研究におけるネットワーク間の相互作用の重要性を指摘するもので、経済社会学からの新たなアプローチとしてのネットワーク分析から、イノベーションの原理を説明する試みである。今後の益々の理論化と実証の可能性を提起することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計3件)

1. Tsutomu Nakano Paper Presentation, 2012 "Heterarchy and Creative Friction in a Regional Cluster; An Evolution of Networks, Institutions, and Cognition," *2012 Management and Social Network Conference*, HEC School of Business, University of Geneva, Geneva, Switzerland, February 17, 2012

2. Tsutomu Nakano Paper Presentation, Sub-theme 51 Organizational Networks in

Flux, “Heterarchy of Network Principles in a Complex System: Creative Friction and Generative Rewiring in a Large-Scale Regional Cluster,” 2011 EGOS Colloquium, Gothenburg, Sweden, July 9, 2011.

3. Tsutomu Nakano Paper Presentation, Concurrent Session 21: Networks. *The Seventh Asia Academy of Management Conference*, “The Global Capitalism and Heterarchy of Network Principles: Cultural Clashed in a Regional Cluster.” Macau, China, December 14, 2010.

〔図書〕（計 3 件）

1. 中野勉 「日本のオーディオ産業と中小企業の連携—ネットワークと文化の視点から」森川信男編著『中小企業の企業連携』（学文社、2013）PP 69—105

2. 中野勉・中野真澄共訳 デヴィッド・スターク著『多様性とイノベーション—価値体系のマネジメントと組織のネットワーク・ダイナミズム』（マグローヒル/日本経済新聞社、2011）445ページ

3. 中野勉 単著『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミクス—共感のマネジメント』（2011、有斐閣）307ページ

〔その他〕

ホームページ

<http://www.gsim.aoyama.ac.jp/~tomnakano/indexj.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者 中野 勉
(Nakano Tsutomu)

研究者番号： 10411795

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：